

なごや こども応援委員会

さまざまな悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に援助するため、**常勤の専門職**を学校現場に配置しています。子どもたちと普段から関わりながら、すべての子どもたちの健やかな発達を支援し、子どもたちが主体的に人生の針路を探すことができるよう応援しています。



職員構成と職務内容

以下の職員で構成されています。



総合援助職 Helping Professionals

子ども・保護者等の相談対応や、関係機関との連携・情報共有をはじめ、生物・心理・社会面から総合的に子どもを応援・援助します。(令和2年度導入)



スクール カウンセラー

公認心理師・臨床心理士等の専門的知識・経験を活かし、主に心理面からのアプローチを担います。



スクール ソーシャルワーカー

社会福祉士等の専門的知識・経験を活かし、主に福祉面からのアプローチを担います。



スクール セクレタリー

ブロック内の庶務事務をはじめ、ブロック間や学校との連絡調整など、子ども応援委員会の活動を円滑に行うための役割を担います。



スクールポリス

元警察官が学校内外の見守り活動や必要に応じた警察との連携を図ります。

名古屋市教育委員会

設置の背景と趣旨

いじめや暴力行為といった子どもの問題行動、不登校等は深刻化しており、教育上の大きな課題となっています。その要因・背景は、学校、家庭、地域や友人関係を始め多様であり、教員だけではなく、様々な専門的知識・経験を持った職員が連携・協力し、組織的な支援体制を整えることが求められています。

一方、多くの教育現場で、教員の負担を軽減するとともに、家庭や地域との連携をより一層図ることが求められています。

また、問題が起きた後の対応だけではなく、すべての子どもたちの発達を支援することが必要です。

こうした課題に対応するため、名古屋市では、常勤のSC・SSWなどからなる『なごや子ども応援委員会』を平成26年4月に設置しました。

令和2年度からは、従来のSCとSSWの業務を一体化し、より広い視点から総合的に子どもを応援・援助する総合援助職(HP:Helping Professionals)を配置し、より効果的な支援を行うことをめざしています。

学校と共に、問題の未然防止、早期発見や個別支援を行い、子どもたちを支援する体制づくりを推進しています。

1 未然防止につながる取り組みの支援を行います。

- 学年集会・授業等における未然防止につながる取り組みの支援
- いじめ予防等につながる生徒会活動等への支援
- 子どもの権利に関わる授業づくりの支援

2 学校内の日常活動を通して、教員と協働し、子どもたちの悩みや心配事の早期発見に努めます。

- 授業、休み時間、給食、清掃、部活動、登下校時の見守り
- いじめ等対策委員会、職員会議、生徒指導会議、現職教育等の各種会議への参加
- 学校生活アンケートの分析・活用に際しての支援
- 危険箇所、たまり場等への定期的な巡回活動

3 幅広い相談対応を行います。

- 専門性と経験を活かした幅広い相談対応
- 家庭訪問等による子どもや保護者の支援

4 家庭、地域、関係機関との連携を強化します。

- 学校と地域・家庭との連絡調整
- 区役所、児童相談所、警察等との連携・情報交換
- 関係機関が開催する会議等への参加

すべての子どもたちのために

なごや子ども応援委員会は、全市立中学校110校★●と一部の市立高等学校★●にHP(総合援助職)またはSCを常勤職員として配置しています。全市立小学校・高等学校・特別支援学校にもSC(会計年度任用職員)を配置し、連携しながら対応を行い、小・中・高途切れのない支援となるよう活動しています。

高校・特支ブロック

令和3年度から12番目のブロックとして設置し、市立高等学校14校、特別支援学校4校における支援体制の構築を進めています。HP2人、SC1人がチームとなり活動しています。

事務局校



市内を12ブロック構成とし、各ブロックに活動の拠点となる事務局を設置しています。HP、SC、SSWを中心とする職員が常勤職員として活動を行なながら、ブロック内の市立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校からの要請に応じた訪問対応を行っています。

※ブロック内の職員は定期的に情報共有やケース検討を行い、チームとして連携しながら事案に対応します。



なごや子ども応援委員会



よりよい応援をしていくために



主任HP

子ども応援委員会の各ブロックでの活動等を総括するため、令和2年度から主任HPを配置しています。

主な職務内容

- HP、SC、SSW、SS、SPの間の連携協力を総括する。
- ブロックの管理運営及びブロック間の連携・協力に係る調整を担う。
- 重大な事案発生時における緊急支援組織を運営する。
- 職員一人ひとりのスキルに応じた人材育成を行う。

チーム会議

各ブロックでは週1回職員が事務局に集まり、情報共有やケース検討等を行っています。ケース検討においては、主任HPがケース対応の方針決定の中心となり、役割分担に応じて個別または複数で事案対応を進めます。

方面別会

市内を3方面に分け、その中の常勤職員のHP、SC、SSWが一堂に会し、専門的な議論・協議・研修等を行い、個々の力量向上を図るために会合を定期的に行っています。

なごや子ども応援委員会の1日の活動例

子どもにとって最もよい環境づくりを学校と一緒に考え、様々な専門性を活かしながらチームで活動します。

朝のあいさつ

登校時から授業・部活動中や下校時まで子どもを見守り、悩みや心配を抱える子どもをいち早く見つけます。



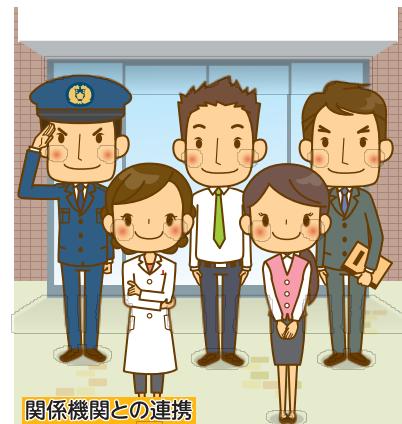
朝

チーム会議

ブロック内の職員が集まり、対応事案について情報共有やケース検討を行います。

未然防止活動

ストレスマネジメントや自己表現について学ぶプログラムの提案・支援を行います。



春

関係機関との連携

区役所や児童相談所などと協力し、子どもや家庭の状況に最も適した支援を行います。

教職員との情報共有

職員会議、生徒指導会議等の各種会議へ参加し、情報共有を行います。



夕

個別面談

悩みごとの気軽な相談から継続的な心理カウンセリングまで、子どもや保護者等の相談に対応します。

家庭訪問

不登校等の子どものいる家庭に職員が訪問し、子どもの心のケアをしたり、保護者の悩みをお聞きしたりします。

お問い合わせ先

名古屋市教育委員会子ども応援室

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目1番4号

TEL:052-950-7161 FAX:052-950-7164

ホームページ

<http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000074050.html>



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS